

研究テーマ： 授業と家庭学習のリズムを作り、主体的に活動する生徒の学びを援助する実践

所属 室戸市立佐喜浜中学校
氏名 中山美樹
RG JH1

1. 研究の背景

3年生は男子14名、女子9名の23名。ほとんどの生徒が英語の基礎基本や基本的学習習慣を身につけている。落ち着いて授業に取り組み、家庭学習の提出率も良好である。

「俄か」におもしろい発言をする生徒も一部いるが、シャイな生徒が多く、日本語・英語ともに表現活動に苦手意識を持っている。また進学を控え、特に、コミュニケーションのために必要な反応——視線・うなずき・質問など——を身に付けさせる必要性も感じている。

入学当初から継続して取り組んでいることの一つに「やらされる勉強」から「意識して身に付ける勉強」への意識付けがある。毎日の授業と家庭学習の充実、「宿題のための宿題」にならないための手立てに一層の工夫をし、自信をつけさせ、表現活動へとつなげたい。

2. リサーチ・クエスション

授業と家庭学習のリズムを作り、主体的に活動する生徒の学びを支援する実践

3. 予備調査

予備調査（1）英語学習アンケート結果から

①授業について、自分なりにがんばっていることや自慢できることは何ですか。〔1学期実施〕

- ・授業中に理解できるようにしっかり聞く。
- ・ポイントを考え授業を受けている。
- ・できるだけメモを取る。
- ・重要だと思うところに線を引いたりして工夫している。

②家庭学習について、自分なりにがんばっていることや自慢できることは何ですか。〔1学期実施〕

- ・覚えながら書くこと。
- ・基本文や単語をしっかり覚えるようにしている。
- ・いろんな色を使いながら分かりやすいように、授業でやった所を復習して覚える。

③英語の授業で楽しいことや好きなこと、やりがいを感じるのはどんなとき？〔2学期実施〕

- ・好きなことは勉強タイム、やりがいを感じるのは難しい問題が解けたとき。
- ・長文などの読解や和訳などと、英文音読しているとき。
- ・歌うときや読みをしているときが楽しい、難しい問題が解けたらやりがいを感じる。

④「しんどいけど英語の勉強しちよってよかったあ」と感じるのはどんなとき？〔2学期実施〕

- ・問題がスラスラ解けたとき、難しい問題が解けたとき。
- ・生活の中にある英語の意味がわかったとき。
- ・流れている英語の歌が少しわかる、英語で書かれているものもわかり始めた。
- ・映画を見たり、歌を聞いているとき、この文習ったなあとか、自分でも訳せるようになったのでよかった。
- ・テストでいい点を取ったときや、英検に合格したとき。
- ・アレクシスさんの話していることがわかったとき。
- ・オーストラリアの人に手紙を書くとき。

予備調査（2）英語力を示すデータ

①CRT分析結果〔2004年5月実施〕領域別学年集計全国比より

- ・聞くこと—113
- ・話すこと—110
- ・読むこと—110
- ・書くこと—121

4. 仮説の設定

- (I) ①「何を学習するか」 ②「どうやって学習するか」 ③「どんなスキルを獲得するのか」を明確にする。
——生徒の自主性を引き出せるのではないかな。
- (II) ペア・ワークの時間を設定し、読む・話す・歌う等、音声活動の中で効果的に用いる。
——生徒同士がお互いに刺激し合い、励まし合いながら、授業を作ることができるのではないかな。
- (III) 書く活動につなげることによって、家庭学習への道筋をつけ、また定着を図る。
——勉強の仕方がわかるのではないかな。
また自学自習の習慣を身に付け、さらにその内容も充実させることができるのではないかな。

5. 計画の実践

- (I) その日の授業の流れをはっきりさせる。また、その日の授業の目標を意識させる。
- (II) 読む・話す・歌う活動やボキャブラリー・チェックなどを「勉友タイム」と名付けたペア・ワークで行う。
- (III) 基本本文の導入に工夫を凝らす。①リピーティング ②ライティング ③ペア・ワーク

6. 実践の結果

- (I) 「今日の授業の内容」として ①歌 ②復習 ③新出単語 ④基本本文 ⑤勉友タイムなどと箇条書きで授業の内容を黒板の右上に書く。また「授業の目標」は、目標を声に出して読んだり、ノートに写した後マーカーで強調するなど、生徒の注意を促す工夫をした。
- (II) 「勉友」は「勉強の友」の短縮形である。斎藤孝氏の「勉強なんて簡単だ！」(PHP研究所)を参考にさせていただいた。「人に話すと覚えられる」「気力が続く」「友だちが隣で集中していると思うと、自分も集中できる」などのメリットがある。「勉友タイム」では、ペアを組んで新出単語や基本本文の確認をしたり、基本本文を使つての簡単な会話をしたり、本文を読んだりした。定期テストの直前のボキャブラリー・チェックなどにも積極的に取り組んだ。
- (III) 基本本文の導入時に、①身近な例文を提示する ②リーディング ③深く呼吸した後リズムを意識して3回～5回リピーティング ④黒板をなるべく見ずに宿題帳にライティング ⑤①～④を2～3つの例文で繰り返した後ペア・ワーク ⑥ペア・ワークで会話に発展させる という活動を取り入れた。

7. 結果の検証

- (I) 「今日の授業の内容」を書くことで指示待ちが防げた。「授業の目標」を確認することで「何のために、何の学習をしているのか」を徹底させることができた。
- (II) 「勉友タイム」は、様々な活動・場面で、声を出して、授業に活気と集中力をもたらす効果があった。
- (III) 導入は教師が行うが、読む・書く・聞く・話す活動は生徒自身が発展させ、活気ある授業を展開することができた。④でライティングを取り入れることで定着を助け、家庭学習へつなげることができた。家庭学習は内容的にもレベル・アップしており、定期テストの結果などにも反映されている。

8. 成果と今後の課題

- (I) 意識して物事に取り組むことの大切さ
せっかくまじめに授業を受け家庭学習に取り組んでいるのだから、意識や工夫次第で成果も上がることを体感してほしかった。成果を上げ、自信をつけた生徒も増えてきた。
「意識」は英語学習だけでなく、あらゆる場面で重要であることを今後も継続して指導していく。
- (II) ペア・ワークの励み
クラスの雰囲気がよく、ペア・ワークも成功した。一斉授業では声の小さい生徒でも、ペアになるとリラックスして楽しく活動できていた。生徒自身にとっても英語を学習している実感が持てる大事な活動であることを再認識させられた。
3学期の課題は、表現活動につなげていくことである。
- (III) 一人で工夫して勉強することのおもしろさ
自分の勉強の仕方を身に付け、充実させることができるようになってきた。
受験勉強に生かし、進学後も自学自習の習慣を継続・発展させてほしい。